

デジタルマップ導入による観光客の周遊促進とデータ活用

公益社団法人宇治市観光協会 京都府宇治市 観光協会等

事業区分：



観光地の販路拡大・
マーケティング強化

課題の背景

観光案内所での紙マップ中心の案内業務では、外国人対応やデータ収集が不十分であった。デジタル化には観光協会の予算確保や地域全体での促進に課題があった。

導入ソリューション

デジタルマップの配信 (Stroly)

デザインマップとロケーション技術を組み合わせ、イラストマップとGPSをWeb上で配信するサービス。経緯度が不正確な地図でも、特許技術により正確な現在地表示や人流データの取得を実現する。



導入による効果

- マップのWeb公開により、多言語での情報発信やタイムリーな最新情報の提供が可能となり、観光客の利便性が向上した。
- ヒートマップやアクセス数などから観光客の移動傾向や滞在時間のデータ取得が可能となり、勘に頼らない観光施策の高度化や広域周遊促進に向けた基盤を構築した。
- 紙面では店名と住所程度しか載せられない課題があったが、店舗詳細情報や写真掲載ができる機能を見せることで、事業者の理解が進みDXへの意識改革に繋がった。

事業者の声

最初はデジタル化に抵抗を示す事業者もいましたが、実際の画面を見せて詳細な店舗情報や写真が掲載できることを伝えると、徐々に理解を得られました。写真撮影をサポートするなど、まずは理解のあるところから少しずつ進めることが大切だと感じています。

ゼロから地図を作るのではなく、20年ほど地域で親しまれてきた紙のイラストマップのデザインをそのまま活かしたことが成功のポイントだったと思います。なじみのあるデザインを活用したことで、地域の事業者の皆さんにも受け入れてもらいやすかったと思います。

課題

平等院など一部エリアに観光客が集中して混雑し、広域への周遊促進ができていなかった。観光施策を改善するため、移動傾向や滞在時間などのデータを収集し、周辺スポットへ観光客を誘導する仕組みの構築が課題であった。

期待する効果

デジタルイラストマップにより観光客の利便性を高め、市内広域への周遊促進が期待される。
さらに、移動傾向や滞在時間などのデータを取得・分析して地域で共有し、今後の観光施策の高度化やイベント企画への活用も期待される。

